

大学生における友人間の相談に求める返答に関する検討

A study on responses university students request when asking for advice from friends

田中 美優・大井 京
Mihiro Tanaka・Misato Oi

近畿大学
Kindai University
oimisato@gmail.com

概要

本研究では、大学生・大学院生を対象に、対人関係に関する相談行動と自尊感情の関連を調査した。自尊感情が高い群ほど他者に相談する傾向が低く、役に立った返答として「留学」「受験」など将来や学業に関する内容が多く挙げられた。自尊感情の程度により、相談傾向や有用とされる返答の内容が異なることが示唆された。今後は自由記述の詳細な分析を通じて検討を深める必要がある。

キーワード：自尊感情、相談

1. はじめに

対人場面において他者からの相談を受ける際、相談者が期待する内容に即した返答がなされることは、双方の満足感を高めるとともに、対人関係の円滑な形成および維持に寄与する可能性がある。道又(2001)は、1988年度から2000年度にかけて行われた学生相談に関する研究をレビューし、大学生が抱える問題が年々多様化・複雑化していることを指摘している。西川(1998)は先行研究を概観し、自尊感情が低いと援助を頻繁に要請する傾向にあると論じている。木村・水野(2004)は、大学生における被援助志向性に関する研究において、自尊感情が低い場合、「心理・健康面」および「修学・進路面」において被援助志向性が低くなることを明らかにした。また、対人関係の問題については、家族よりも友人に援助を求める傾向が強いことも報告されている。このように、先行研究では、自尊感情が相談傾向や相談内容の選択に影響を及ぼすことが示されている。

一方で、相談行動の「結果」にあたる、相談者が他者にどのような返答を求めているのか、またその返答が自尊感情によってどのように異なるかについての検討は十分に行われていない。

本研究では、大学生・大学院生を対象として、対人関係に関する相談経験およびその際に得た返答に着目し、先行研究においても相談との関連性が指摘されている

自尊感情の程度が、求める返答に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。対人関係の分類には、高井(2008)による「友人関係」「恋愛関係」「家族・親戚関係」「先輩・後輩関係・アルバイト先の人間関係」に「その他の人間関係」を加えた5カテゴリを用いる。

2. 方法

2.1 実験参加者

2024年12月にオンライン上で調査を実施したところ、大学生・大学院生84名が回答した(男性27名 女性56名 答えたくない1名)

2.2 調査課題

調査参加者は、関係性別の相談傾向(15項目)、相談経験(2項目)、内田・上埜(2010)によって日本語版の妥当性が示されている Rosenberg 自尊感情尺度(10項目)に回答した。質問項目は Google フォームによって実験参加者に呈示され、回答が求められた。

3. 結果と考察

自尊感情得点の結果($M = 26.3, SD = 6.11$)を基に、得点の下位25%を「自尊感情が低い群」、上位25%を「自尊感情が高い群」、それ以外を「中程度群」として分類した。

まず、5種類の対人関係のそれぞれについて、過去の相談経験の結果を、「相談したことがある」=3点、「悩んだが相談していない」=2点、「悩んだことがない」=1点に分類し、5種類の対人関係の相談結果の合計を相談得点とした。横軸を自尊感情得点、縦軸を相談得点とした散布図を図1に示す。

これらの関係を調べるために、Pearsonの相関係数を算出して無相関検定を行ったところ、自尊感情と相談傾向には有意な弱い負の相関が認められた($r = -.23, t(82) = -2.18, p = .031$)。このことから、自尊感情得点が高いほど他者に相談する傾向が低いことが示唆された。

